

アーティストインタビュー

立川小春志

KOSYUNJI TATEKAWA



4人の落語家の話芸に初笑いする「こがねい落語特選 新春 昇華爛漫の会」に、落語家 立川小春志さんが初登場。

小春志さんは東京農工大学出身という“小金井ゆかり”の落語家で、今年5月5日、めでたく真打昇進！立川流初の女流真打となった小春志さんに、これまでとこれからについてうかがいました。

祝・真打昇進！

昆虫の研究から落語の道へ

こがねいメンバーズ会員限定イベント「時代考証のプロが語る！落語にみる江戸のくらし」や、ムジカこがねいとのコラボレーションによる落語『平林』^{ひらばやし}に出演された落語家立川こはるさんが、令和5年5月5日という5並びの日に真打に昇進！亭号は立川小春志さんとなりました。

小春志さんは東京農工大学出身。大学で落語研究会に所属しながら、生物学者を目指し、応用昆虫学研究室で研究に没頭していたという異例の経歴の持ち主です。きっと小さい頃から落語好き、江戸好きなのだろうと思いきや……

「落研に入るまで落語を知らず、興味も全くなかったんですよ。理系の勉強に専念していたので江戸の文化も知らなくて、落語を聴いても何を言っているのかよく分からず。長屋の造りも知りませんでした」

大学院へ進みますが、修士課程1年が終わったとき退学し、立川談春師匠のもとへ弟子入り。落語の道への転身を決意したのは、談春師匠の落語を聴いたことがきっかけでした。

「それまでいろいろな落語を聴いて楽しんでいましたが、うちの（談春）師匠の落語が圧倒的だったんです。迫力があって、説得力があって。それで弟子になろうと決意しました。研究者の世界もいいけど、落語の世界に挑戦したいなと思って」

当時、女性の落語家は15人ほどしかおらず、しかも「立川流は“女の落語家は認めない”と談志師匠が公言していますから、入門は無理だろうと思っていました」。それでもめでたく入門を許された小春志さんですが、なんと談志師匠からは男だと勘違いされていたのだとか！

「入門から半年後、仕事で行ったテレビ局で“おまえ女だったのか！”と談志師匠に驚かれました。今まで気づいていなかったのか、と私の方が驚きましたよ（苦笑）」

そんな破格のエピソードも飛び出す「立川流」ですが、談春師匠の教えで心に残っていること、それは「師匠を快適にしないさ」。



「立川流の修業の根本なのですが、つまり、1人の人間を快適にできない人は、何百人ものお客様を前に落語をしてもよく思ってもらえるわけがない、と。気働き、気遣いですね。相手のことを考えて動くことが大事。これは落語に限りません。社会に出れば出るほど身に染みしています」

人生をかけて芸道を精進

その始まりの「こがねい落語特選」

冒頭で挙げたように、小春志さんにはこれまで小金井ならではの企画にご出演いただいていた。

「『時代考証のプロが語る！落語にみる江戸のくらし』（2019年1月開催）は時代考証の第一人者、大石学先生の知識とお人柄に本当に打たれました。打ち合わせから大盛り上がりで、とても楽しくて。またぜひやりたいですね。」

ムジカこがねいさんとの『平林』では、企画された演奏家の方が“落語と音楽が対等の、新しいものを作りましょう”とおっしゃって、落語の内容を音楽で表す作品を作ってくださったのです。これは初めての体験で、すごくよかったですね。ムジカこがねいさんとの縁は今も続いてまして、7月に開いた真打昇進披露パーティーでBGMを生演奏していただきました」

そして新春、いよいよ「こがねい落語特選」に初登場いただきます。

「年内は昇進の披露目などで慌ただしいので、真打としてののびのび落語をできるのは年が明けてから。人生をかけて芸道に精進していく、その始まりに、わさび兄さん、文菊兄さん、そして市馬師匠という大先輩方と一緒にできるのがありがたいです」

新たな落語家人生が始まった今、これからどんな落語家を目指したいかがありました。

「女の落語家もやっと50人ぐらいまで増えました。時代と共に落語も変わってきています。女性のお客さんの中には、男性落語家のギラついた表現が苦手だけど、女性落語家なら聴けるという方もいらっしや、そんな中で“小春志の落語を聴く”がひとつの新しい価値観になったら嬉しいですね。そのために、落語の稽古はもちろん、色々な人のお付き合いを増やしたいです」

9月に東京農工大学の広報大使にも就任され、ますます小金井との縁が深まる立川小春志さん。真打として小金井での初高座となる「新春 昇華爛漫の会」、どうぞお楽しみに！

【につぼん、体感。一古典芸能の祭典】
こがねい落語特選

新春 昇華爛漫の会

2024年1月28日(日) 13:00開演 大ホール

全席指定 一般 3,500円 U25席 2,000円

【こがねいメンバーズ】一般 3,200円

柳亭市馬／古今亭文菊／柳家わさび／立川小春志(こはる改メ)

